

ヤッシュュレス決済ポイント還元事業と市内消費喚起事業の継続を希望する多くの意見を頂いた。令和4年度は、既存のキャッシュレス決済取扱事業者を含め、3社に拡充する。

市内消費喚起事業は、電子商品券方式によるプレミアム応援カードとして、9月12月で実施。国の交付金を効果的に活用する。

**意見** 高齢者応援カードをはじめ、我々市議団は、多くの要望をしてきた。それに対し、令和4年度の施策に多岐にわたり対応されたことを高く評価する。今後、対政側に伝えていくので、対応をお願いしたい。

コロナ対策については、先代丸山市長からの万全とも言える関係構築を築き上げてきた市内医療機関の皆様、そしてエッセンシャルワーカーの皆様方の御協力に、深謝する。また、新組織を立ち上げ、接種体制を構築し、ワクチン接種を他市に比べ一歩リードする形で行ってきた市職員に改めて感謝を申し上げる。

**問** ゼロカーボンシティ宣言とは。

**答** 子どもたちからも、自然豊かな西東京市でいてほしいという声や、食品ロスやCO<sub>2</sub>排出などを削減していくと言った未来の本市への思いが寄せられた。その思いを受け止め、環境負荷の少ないまちづくりが待ったなしの課題と認識し、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すゼロカーボンシティを宣言した。また、環境に配慮した行動実践には環境学習が必要と考え、保育園や幼稚園にて出

前講座等も実施している。

**問** コロナ禍の財政状況は。

**答** 経常収支比率は改善し、財政調整基金(家庭で言う貯金)も3億4千万円の回復を実現している。引き続き市民サービスの提供とともにバランス感のある市政運営を進める。

**問** 産前・産後ケアは。

**答** 産後1年以内の母子等に対し、心身ケアや育児サポート等を専門家が実施する。令和4年度は、短期入所型及び通所型を実施。事業開始は8月以降。

**問** 児童発達支援センター事業について。

**答** 本市における児童発達支援に係る相談件数の増加、障害の早期発見・支援の必要性を踏まえ、子どもの発達を一緒に考え、地域の中で育むことを基本理念に位置づけ、地域の連携体制の構築を進める。児童発達支援事業は、田無総合福祉センターを改修し、民間事業者を公募し、市内全体で面的な支援の拡充を図る。

**問** 福祉丸ごと相談窓口は。

**答** 福祉に関する相談を丸ごと受け止め、複合的な課題などを相談できる窓口として開設。コロナ感染拡大の影響による相談が多く、対象となる支援策に関する情報を案内している。

**意見** ゼビ組織の改善と人員増強を要望する。

**問** まちなか先生について。

**答** 専門職等が講師となり、学校で授業を行っている。地域学校協働活動にもつながりたい。

**問** 「健康」応援都市の実現とは。

**答** 健康寿命の延伸及び主観的健康感の向上を目標とし、健康ポイントアプリあ

るこ」を構築。65歳健康寿命は、今後も数値の検証を関係部署で確認し、市民が健康になること、健康であることを地域で支える。

**問** もの忘れ予防検診とは。

**答** 認知症の正しい知識の普及啓発を進め、早期診断と対応促進のため、70、80歳の約2万3千人に予防検診の案内を送付。今後も取り組む。

**問** 市民会館の跡地活用は。

**答** 1月に事業者選定を行い、民間健診センター、透析センター、健康支援スタジオ、カフェ・健康レストラン等の提案があり、1階には「えほん図書館」等の提案があった。

**問** 北京オリンピックについて、地元選手が活躍したか。

**答** 女子アイスホッケー競技で東伏見を拠点とするSEIBUプリンスセラピッツ代表選手が選出され6位入賞という成績を残された。市民でもある小西あかね選手と会う機会もあり、今後の愛着が持てるまちづくりを進める。

**問** 公共施設の電力調達は。

**答** 再生エネルギー由来のものへの切り替えは約120の小規模施設は7月から、50の大規模施設も10月から予定。温室効果ガス排出抑制も空調機等の更新で対応。

**問** 森林環境譲与税の活用とは。

**答** 中原小建て替え、泉小わくわく公園整備、上向台小改修などの木材利用に係る費用に充当。

**問** にしとうきょう環境チャレンジ・アワードとは。

**答** 環境チャレンジは環境に配慮した行動に対し、ポ



MUFG PARKイメージ図

イントを付与し、商品が当たる抽選に応募できる制度。アワードは個人・団体を対象にして、成果等を評価し表彰する。

**問** 一般廃棄物処理基本計画について。

**答** 全国でも高いごみ減量と資源化を達成しており新計画でも引き続き、ごみの排出抑制、減量化、資源化に向けて努力する必要がある。

**問** 下保谷四丁目特別緑地保全地区保全活用計画の進捗状況は。

**答** 令和3年度策定の保全活用計画により、一般開放の機会を試行的に増やしイベント開催など保全と活用に取り組む。

**問** 東大生体調和農学機構について。

**答** 運営諮問会議に委員として参加。草花観察をされた市民の方々の記録が大学関係者に論文としてまとめられたという極めて稀な事例もある。

**問** MUFG PARKは。

**答** 令和5年6月に一般開放される予定。6haの広大な緑地とスポーツ施設を備えた空間を解放していただく。利用に向けた調整も今後進めていく。

**問** 田無駅南口広場についての進捗は。

**答** 令和2年度までに2件の用地取得を完了。令和4年度は2件の用地買収を予定。

**問** 空き家対策について。

**答** 実態調査を基にデータベース化し、希望者となぐ仕組みづくりを検討する。

**問** 連続立体交差事業は。

**答** 井荻駅から西武柳沢駅間、東伏見南口駅前広場の計画変更を決定した。事業期間は15年を想定。

**問** 風水害への対応は。

**答** 令和元年台風19号の対応で、様々な課題が見えた。令和3年度は地域防災計画・風水害編を分冊化し、行動内容を明確化した。

**問** 女性の働き方サポート推進事業について。

**答** 本市独自の事業として進めておりハンサム・ママ・フェスタなども開催。

**問** 公式LINEについて。

**答** 令和3年12月に運用開始。ワクチン接種情報等、様々な情報を発信。

**問** キャッシュレス決済は。

**答** 税等の収納は4月に、住民票等は10月に導入予定。

**問** (仮称)おくやみ窓口について。

**答** ワンストップで行う専用窓口を8月目途に設置。

**問** 学校に登校しない、できない児童・生徒への対応は。

**答** 個人面談実施やスクールソーシャルワーカーが状況を把握するなど、自分らしさを応援するシステムを構築する。

**問** 学校トイレ改修は。

**答** 建て替え等以外の小学校12校、中学校7校で実施。洋式化の促進等を図る。

**問** 中央図書館・田無公民館の工事について。

**答** 図書館は耐震補強と照明LED化、トイレ洋式化等を実施。公民館は常設の学習専用スペースなどのロビー機能強化を図り、4月に再開予定。

**問** したのや縄文里山プロジェクトについて。

**答** 地域団体、地元商店街等に支えられ活動をしてきた。令和2年度のクラウドファンディング寄附者には、「ムラびと証」を送付した。

## 広報委員会 視察REPORT

日程・視察先	令和4年2月7日 愛知県安城市
視察方法	オンラインによる視察
報告者	広報委員長 大林 光昭
参加	委員11名、正副議長2名、委員外議員1名

安城市では平成27年に安城市議会ICT推進PTを発足し、全国に先駆けて議会のICT化を進めている。また、議会ホームページや議会だよりのリニューアルを行うなど、市民に伝わる情報の発信にも力を入れている。先進的な議会のICT化やホームページ、議会だよりについて視察した。

### 議会ICT化

ペーパーレス等議会ICT化の効果、議員のタブレット端末の利用状況、市民への説明等への活用など、開かれた議会を目指した取組の導入当時の状況から現状まで、幅広く学んだ。

### 議会ホームページ

ICT化に取り組む中で、市のホームページから独立し、市議会独自のホームページを開発し情報を発信している。その際、インパクトのある「やるじゃん!安城」というキャッチコピーを決めるなど、提案から交渉まで議員主導で立ち上げを行った。

### 議会だより

これまでに2回、大きなリニューアルを行っている。1回目は市の広報紙からの独立。2回目は縦書きであったものを横書きにし、カラー化をした。また、市内にある6校の高校と1校の特別支援学校の生徒たちと協力し、ほぼ毎月特集記事を作成している。

### おわりに

本市議会においても「市民に開かれた市議会」を目指し、ICT化や議会としての広報の取組を進めたい。また、引き続き安城市議会と情報共有させていただきながら、議会の取組を進めていきたい。

館の工事について。

**問** 図書館は耐震補強と照明LED化、トイレ洋式化等を実施。公民館は常設の学習専用スペースなどのロビー機能強化を図り、4月に再開予定。

**問** したのや縄文里山プロジェクトについて。

**答** 地域団体、地元商店街等に支えられ活動をしてきた。令和2年度のクラウドファンディング寄附者には、「ムラびと証」を送付した。

**その他意見** 北原町2・3丁目のバス停付近の信号機、農場通り部分の横断歩道設置が地元住民より出ている。東京都への強い要望を願う。子ども食堂に関しては引き続き手厚い補助を望む。



ちきゅうくん

\*エッセンシャルワーカー 日常生活を維持していく中で重要な役割を担う、必要不可欠な労働者。  
\*スクールソーシャルワーカー 教育と福祉の両面に関して、専門的な知識・技術を有するとともに、過去に教育や福祉の分野において、活動経験の実績等がある者。問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援を用いて、課題解決への対応を図る。